

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000047		
法人名	特定非営利活動法人 りあらいず和		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 郡上乃風グループホーム 木もれ陽の家		
所在地	岐阜県郡上市八幡町初納430-1		
自己評価作成日	令和1年12月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191000047-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ゑふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の友達や馴染みの方がほぼ毎日来苑されている。さらに地元舞遊会や地元神社の獅子舞や神楽に来苑していただき、地域の方々には利用者と共に観覧していただきました。地域地元に根差した施設運営に力を入れています。また、昨年からキルギス国より外国人の研修雇用先として異文化の職員と利用者の交流にも力を入れています。利用者、家族、職員が1つの家族として暮らせる場所づくりは開所一番力を入れている点になります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念として、「自分の家族や自分自身が受けたくなくなるような介護サービスの実践」を掲げ、支援に取り組んでいる。職員は、利用者が住み慣れた地域の中で、残存機能の維持・継続が出来るよう支え、笑顔の絶えない暮らしの支援を実践している。管理者は、出来る限り、地元からの人材確保に努めながら、外国人の介護研修生を受け入れて、利用者と交流を図っている。食事作りでは、楽しみながら郷土料理や行事食づくりを行い、利用者との信頼関係を深めている。管理者は、働きやすい環境整備に努め、質の高いサービスの提供と共に、職員の介護力の強化に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分の家族や自分自身が受けたくなくなるような介護サービスの実践を全職員が共有して、心に寄り添う介護をめざし接しています。	理念である「自分の家族や自分自身が受けたくなくなる介護」を具体的実践に置き換えて、職員研修やフロアー会議等で話し合い、共有している。利用者が、住み慣れた地域の中で、残存機能の維持、継続できるよう支援し、利用者自身が、役割を実感できるケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者や職員が、地域地元の一員として地元舞遊会や地元神社の獅子舞、神楽の方に来苑していただき、近隣住民を招待し利用者と共に観覧していただきました。	自治会の行事や清掃活動等に参加している。地元神社の獅子舞訪問の際には、近隣住民を招待し、利用者と共に演舞を観ながら交流している。定期的に小学生の訪問があり、学生の職場体験受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏休み等に学生(小中高)の受入れを積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回の会議で議題が上がったことは部署会議や主任会議にて共有し議題解決に活かしている。	運営推進会議は地域代表、行政、家族、利用者が参加し、行事報告や今後の予定など意見交換を行っている。職員の数について意見があり、人員配置については、万全の支援体制に努めていることを説明し、理解を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係構築の為、運営推進会議へ市役所や社協の職員に参加していただくことで実情や内容また、課題等を共有でき意見等も会議内で伺っています。	運営推進会議の場で、地域高齢者の現状、介護保険の動向など意見交換を行っている。行政とは、空き情報や困難事例の相談で連絡を密にしている。行政主催の研修会には積極的に参加し、利用者サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修参加や利用者家族より拘束しない旨の同意書を頂いたり、毎月の職員での周知徹底の取り組みをしています。	身体拘束等防止委員会を定期的に開催している。拘束をしないケアを周知徹底し、運営推進会議に於いても参加者に説明をしながら取り組んでいる。利用者の安心安全な支援に努め、拘束をしないことで起きるリスクについても話し合いながら、統一した支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修への参加し、虐待防止委員会の設置、毎月の会議にて虐待へ知識向上を全職員と行っております。		

岐阜県 木もれ陽の家グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度研修への参加。また掲示板に資料を掲載することによって職員がいつでも見られるように掲示しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や利用説明時には極力施設長・管理者・ケアマネが立会い十分な説明を行うよう努めています。また、疑問や不安点は随時解決できるように引き継ぎ対応などの整備をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や面会時に利用者や家族から出た意見については都度解決、運営反映できるようご意見箱の設置や会議での職員間共有を行なっております。また木もれ陽だよりによる近状報告を行なっております。	家族の訪問が多く、訪問時には意見や要望を時間をかけて聞いている。毎月、「木もれ陽たより」を家族に送付し、行事予定や報告、利用者の日々の様子を伝えている。家族から、利用者が集まって、ワイワイ楽しむ時間も必要ではないかと言った意見も出ている。	事業所は、利用者と家族の要望を聴き、支援内容を明確にするために、個別の相談時間を設けて、個別支援の充実を検討中である。家族との協力関係を築きながら、検討課題の実現に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者や家族の意見同様に月一会議時に議題として解決をしています。また小さな問題点は随時施設長まで上げて随時可決できるよう努めています。	管理者も現場に入り、職員の日々の気付きや要望を聴いている。出来ることから、迅速に改善を行い、組織的課題については機会を設けて検討している。職員の資格取得を奨励し、職場環境・条件整備でモチベーションを高めながら、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年より処遇改善を取得し、賃金アップによるモチベーション向上を行ないました。また今年度には加算2へランクアップも取得しました。また、年2回全職員に個別面談を実施し、意見等の聞き取りも行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT等社内研修の実施や資格取得サポート(有給取得やシフト調整)を行なっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク会議研修への参加や市役所高齢福祉課主催のカフェへの参加等によるサービス内容等の同業者交流を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時や利用説明時には極力施設長・管理者・ケアマネが立会い十分な説明を行うよう努めています。また、入所後にでてくる要望等も利用者や家族とやり取りを繰り返し安心してもらえる環境を作っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や利用説明時には極力施設長・管理者・ケアマネが立会い十分な説明を行うよう努めています。また、不安や要望については相互相談しながら随時解決できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や病院、利用していた支援所への問い合わせ等を導入前に行っておりできるだけスムーズなサービス導入ができる様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地元の話や方言(郡上弁)で会話をすることで親近感ある対応を行なっています。また理念である家族の様な関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会時や受診時に利用者の近況報告をしたり、木もれ陽便り等の意見をきいたりし、できるだけ話しやすい雰囲気を作るよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や近所の方に気軽に来苑していただけることを家族や利用者に事前に伝えてあり、遠方の親戚や近所の方が遊びにいられている。また友達との外食ができる様に外出支援のお手伝いも行っています。	家族や友人の訪問も多く、面会時には気兼ねなく過ごせるよう配慮している。個々の希望や、入居前に通っていたスポーツジムやお茶会などへの送迎も、家族の協力を得ながら行い、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で交流できる様に朝の体操や昼間のレクやおやつ時間を設け、居室だけで過ごさず居間での交流を促せる声掛けに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	アフターフォロー等退所後の施設や病院には細かく伝えられるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の誕生日には誕生会を行ったり、外出したい方は、外出支援のお手伝いを行っております。また、舞遊会や獅子舞神楽、花火大会など施設内でも楽しめる行事の実践に努めています。	利用者の思いや意向の把握は、日々の暮らしの中で聞いたり、利用者同士の会話や普段の言動などからも把握するよう努めている。新たな気づきは介護記録に記載し、職員間で共有している。困難な場合は、家族の協力を得ながら、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりに合わせた支援や余暇など個人個人のニーズにできるだけ合わせた支援ができる様月一会議にて職員間で意見交換等をし個々に合わせたサービスが利用できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を作ることで担当利用者に特化した細かな目で過ごし方等の観察をし会議にてその他職員にも伝えられる様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を作ることで担当利用者に特化した細かなサービス支援を行なう様努めています。また担当職員より他職員や家族に状態を共有し、現状に合わせた計画を作成しています。	介護計画作成時には、ケアマネジャーが家族と面談し意向を把握をしている。担当職員の介護記録をもとに、医師や専門職等と意見交換を行い、チームで作成している。現状に変化が生じた場合は、柔軟に見直しを行っている。	サービス担当者会議は、できる限り家族も参加できる日程での開催が望ましい。利用者の状態と介護計画の内容を理解しながら、家族もチームの一員として、計画作成に関わる体制づくりに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当職員を作ることで担当利用者に特化した細かなサービス支援を行なう様努めています。また担当職員より他職員や家族に状態を共有し、介護計画の見直しや実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当職員を作ることで担当利用者に特化した細かなサービス支援を行なう様努めています。また担当職員が都度あるニーズに答えるべく、会議等で相談共有しサービス向上に向け取り組んでいます。		

岐阜県 木もれ陽の家グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者個々ごとの都合にあわせた外出支援で地域サロンや食事会への参加機会を設けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則は家族に受診をしていただいている。利用者や家族のつながりを大切にしています。また家族の都合によっては、法人内の助け合い事業を利用し受診支援を行っております。	契約時に、利用者・家族にかかりつけ医について、事業所の方針を説明している。受診は家族の同行を基本とし、家族と連携を図りながら、医療情報を共有している。遠方の家族や緊急時等には、法人が運営している「助け合い事業」を利用し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に准看護師が在職中の為、常に相談報告等の意見交換ができています。また、個々の情報を得るために利用者の服薬管理を准看護師が行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、医療機関に伺い、医療関係者との関係づくりや利用者の最新情報収集や相談意見交換ができる様努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針を職員、家族、医療関係者と相談の上決定しています。	契約時に、本人・家族に重度化や終末期に向けた事業所の指針を説明し同意を得ている。重度化した場合は、早い段階から家族と関係者が話し合い、医療関係者の意見を参考にしながら方針を決定している。家族の意向を確認しつつ、より良い支援が行なえるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防に来苑していただき、AED講習を全職員が受講できる取り組みをしています。また、緊急連絡網の整備や招集訓練も年数回取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いのうえ避難訓練の実施や避難先までの避難路の掲載をしています。また、近隣福祉施設への避難協定も締結しています。非常時の設備とし自家発電装置、防災用具、非常食の設置をしています。	年2回夜間想定を含めた防災訓練を実施し、避難誘導、器具の取り扱い方法の確認、通報などを行っている。水害や地震対策についても、ハザードマップを参考に話し合い、想定できる範囲の防災グッズや備蓄品を準備している。地元との連携体制も整い、運営推進会議で報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の基本理念として、自分の家族や自分自身が受けたくるような介護サービスの実践を全職員が共有して、心に寄り添う介護をめざし対応しています。また誕生会など個々のイベントごと大切実践しています。	職員は、常に法人理念の実践を意識するよう心がけながら、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。馴染みのある方言での会話は、家庭的で心地良く、様々なイベントを通じて、利用者満足につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位な介護サービスを行うよう、個々の希望にそった暮らし方を提案実践しています。また入浴時やレク参加時等、都度確認も大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	都度確認を大切にすることで利用者個々のペースに合わせられる様努めています。また、利用者個々のコンディションにあわせた支援ができる様努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	木もれ陽の家では、若干ではありますがクローゼが広めに作られていて、服を多めに持ちこむことができます。また、入浴時には利用者が自分で服を準備選択し、入浴後に着用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生きる上で大切なこととして全職員が認識しており、法人内の弁当を利用し栄養面も考えられたメニューを食べています。また、朝食は今季より名鉄協商の商品を使うことで一品プラスした食事を提供しています。	法人の配食サービスを利用しながら、栄養管理と共に、一人ひとりの嚥下機能にも配慮した食事形態で提供している。また、イベント時には、特別メニューやケーキの提供等で、楽しみながら栄養補給ができるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に3度の食事では、1度に食べきれない事が多いので、間食を10時と15時に2度入れることで水分補給や栄養補給がこまめにできる様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアとして歯磨き、歯磨きの支援を個々の状態によりサポートしています。		

岐阜県 木もれ陽の家グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りリハパンで過ごしていただき、トイレ誘導等でおむつの使用を減らしています。またポータブルトイレの使用などを使用し、パターンや習慣を極力変えないよ支援しています。	トイレでの排泄が習慣になるよう、昼夜の声掛けとトイレ誘導で支援し、排泄用品の軽減にもつなげている。その人の状態に合わせて排泄パッドの変更もあるが、本人の尊厳を守り、違和感がないよう配慮している。夜間はポータブルトイレを利用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には、法人内の栄養管理がされている弁当を使用し、便秘予防に努めています。また、排便管理も個人ごとに管理し把握に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には必ず意志の確認を徹底し無理に入浴をしていただかない。また、入浴の順番変更により入浴のタイミング変更をするなど利用者本位としています。	入浴は週2回を基本とし、利用者の希望を確認している。職員は、利用者の状態に合わせて、清拭、足浴、シャワー浴等で、コミュニケーションを図りながら支援している。個浴が困難な利用者は、リフト浴で安心、安全な入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースで一日を過ごしていただける様、レクの参加や入浴のタイミング、間食のタイミングなど配慮しています。また睡眠についても、服薬等により眠れないことが無い把握しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については十分に理解した上、服薬については、取扱いに十分注意し、准看護師が管理し、医療関係者とのやり取り等を含めた情報共有を都度行うように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において各自のレベルに合わせてやれる事をやっていただく役割があります。また嗜好品として好物は差し入れていただくこともあります。気分転換にベランダや外出支援にでられる利用者もみえます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅への外出外泊支援を助け合い事業を利用しながら支援しています。また、外食等も同じように支援しています。家族や知人の方が送迎をしていただくこともあります。不定期にはなりますがコンビニへ出かけて買い物をすることもあります。	天候や利用者の健康状態に合わせて、周辺の散歩やウッドデッキでの外気浴など、希望に応じて支援している。利用者の馴染みの場所に出かけたり、近隣のコンビニで買い物などを楽しんでいる。家族と外食に出かけたり、家の行事に参加する利用者もある。	

岐阜県 木もれ陽の家グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々のレベルに合わせた対応でお金の管理利用をしています。またお金の使いすぎによる家族への負担も考慮し、家族と相談しながらお金の管理や使用対応の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に送れるような手紙をレクにて作成したり、希望がある方は定期的に家族や知人とやり取りをしています。電話は、かける時間を調整し、家族や友人に失礼のない時間に自由にかける様その都度対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面に考慮し、非常グッズや消火器などを除き余分な物を置かない様にしています。また玄関には職員紹介や行事の思いなどの掲示物を掲載し行事を思い起こせるようにしています。また掘りごたつや畳、ソファなど気軽に横になれる場所などを配置しています。	食堂兼リビングは広く、車椅子なども安全に行き来ができる。掘り炬燵のある畳コーナーでは、利用者同士が会話を楽しむなど、家庭的な雰囲気である。本棚には色々なジャンルの本が並び、利用者が食堂やリビング、休憩室等の好きな場所で読書を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居利用者同士のコミュニケーションを取れる配置や独りで寛げる場を設け思い思いの過ごせるよう配置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族から利用者が使っていた家具などを持参していただき住み慣れた家に近い模様や使用感で居心地良く過ごせる居室にしています。	居室の入り口には、居室ごとに異なる柄の暖簾をかけ、自分の部屋がわかるよう工夫している。エアコン、広いクローゼット、ベッド及び固定のサイドテーブルが設置され、サイドテーブルはベッドから立ち上がる際の補助バーの代りに利用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ができる事を継続して続けてもらえる様、トイレや廊下に手すりの設置や玄関に座って靴が履けるように椅子の配置など、安全かつ自立した生活が送れるような配置や設置をしています。		